

子流乃家畧

五



3586



新古今未真濃の家柄や五乃女

新古今

入道新古今白家百首歌小立春



俊成

春はあけぼのけしきをばかきとほひてさきかき  
きりぎりすのうらたてのうらたてのうらたてのうらたて  
老後のうらたてもあはれ

土沙門内大佐左衛門尉山泉殘雪 有家納付

山陰やふらふらと宿小飲もあはれきりぎりすのうらたてのうらたて  
たのまのむかしきりぎりすのうらたてのうらたてのうらたて

〇入道新古今白家百首歌五の巻

10



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

源師克

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific mark.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The lines are closely spaced and written in a consistent hand.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a separate line or section.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific mark.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The lines are closely spaced and written in a consistent hand.

御事大はさうもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに

又十三年の御事なり。 善兵衛大信正

おのれは同じくまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに

よき御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに

又十四年の御事なり。 善兵衛大信正

よき御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに

俊成

よき御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに

民部卿範光

よき御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに  
はかばかしくもあらまはし給ふの御事なり。いと親をさし給ふに





くらねて〜祖め〜ま〜。雲井の月さらば梅中せ〜  
 又は月さらり〜ま〜。此梅中の月と〜るま〜と  
 日本昔は〜ま〜。あ〜ま〜のか〜ま〜ま〜ま〜  
 月〜ま〜の〜ま〜。だ〜ま〜の〜ま〜  
 流〜ま〜の〜ま〜。一〜ま〜の〜ま〜ま〜  
 あ〜ま〜。抑〜ま〜と〜ま〜ま〜  
 一〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜  
 雲井の月さらば梅中せ〜  
 くらねて〜祖め〜ま〜。

あふ徳院ふ百さ〜ま〜



西首二首りなま〜時

梅改

月〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 と白〜ま〜の〜ま〜。今〜ま〜の〜ま〜  
 夢の泡〜ま〜の〜ま〜。さ〜ま〜の〜ま〜  
 ま〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 春〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 夏〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 秋〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 冬〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 春〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 夏〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 秋〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜  
 冬〜ま〜の〜ま〜。あ〜ま〜の〜ま〜







秋なる月夜が静かなる時  
 月夜が静かなる時  
 長夜を静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに

百首の静かなる時

藤原隆信の詩

秋なる月夜が静かなる時  
 月夜が静かなる時  
 長夜を静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに

秋なる月夜が静かなる時  
 月夜が静かなる時  
 長夜を静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに

寂超法師

秋なる月夜が静かなる時  
 月夜が静かなる時  
 長夜を静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに  
 静かに静かに

○*Omnia in manu tua sunt et non est qui te evadere possit. Quia tu solus sanctus et dominus deus tuus. Tu solus sanctus et dominus deus tuus. Tu solus sanctus et dominus deus tuus.*

春日社歌合小波月

抄改

○*Haru no miya o... (Handwritten Japanese text in kuzushiji style)*

おとよび歌

○*Otoyobi no uta... (Handwritten Japanese text in kuzushiji style)*







乃夢よあめりけの国にありては  
あつてはなほあつてはなほあつては  
又その相平のあつてはなほあつては  
よるかにあつてはなほあつては

能くあつてはなほあつては  
平のあつてはなほあつては

あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては

あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては

あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては

あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては  
あつてはなほあつては

あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あり。 秋山と松虫の縁あり。 松の道がゆふ松ちと

ふよ百毒歌合ふ

あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと

雲の懐旧

通光の

あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと

あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと  
あまのつゆの道がゆふ松ちとあまのつゆの道がゆふ松ちと



Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a section header or a specific reference within the passage.

Main body of handwritten text in a cursive script, continuing the passage from the previous page.

Handwritten text, possibly a section header or a specific reference within the passage.

Handwritten text, possibly a section header or a specific reference within the passage.

Main body of handwritten text in a cursive script, continuing the passage from the previous page.

新番中

五平さあよきと暮りしお 慈南大借正

酒場の宴多きを岸はうね波のまをまわのひよよ〜とあをかゆ  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜 流の流〜 流の流〜  
〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜

和歌正歌合小宮路秋風 抄改

人かまぬ不破の宴多の夜もさ〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜  
流の流〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜

人の心〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜 或抄

此秋の風を正歌合も小宮路の夜もさ〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜

小宮路の夜もさ〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜 正三佐季能

水の江乃〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜 浦の夜も  
風〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜 丹後正能  
新徳井神社あさぬはるの夜もさ〜とあさぬはるの夜〜と流の流〜  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜 繁々神  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜 繁々神  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜 繁々神  
とあさぬはるの夜〜と流の流〜 繁々神

ふらふらあるはふらふらあるはふらふらあるはふらふらあるは

海邊のころを

秀能

今もつよふはつよふはつよふはつよふはつよふはつよふはつよふは

神二百箇をうへて

三の夕方の事をい

くはかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

海邊の處

家傳の片

こつこつをうへてうへてうへてうへてうへてうへてうへてうへて

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき  
西の

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

三の夕方の事をい

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

秀能大僧正

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

函行

何れにせよ、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

神の御心は、人の心とは、異なるものである。

人の心は、常に迷ひ、悔ひ、苦しむものである。

神の御心は、常に清く、正しく、慈悲に満ちたものである。

人の心は、常に自分勝手である。

五十七歳 昭和十八年 五月

あつて、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

神の御心は、人の心とは、異なるものである。

人の心は、常に迷ひ、悔ひ、苦しむものである。

あつて、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

神の御心は、人の心とは、異なるものである。

人の心は、常に迷ひ、悔ひ、苦しむものである。

あつて、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

神の御心は、人の心とは、異なるものである。

人の心は、常に迷ひ、悔ひ、苦しむものである。

あつて、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

神の御心は、人の心とは、異なるものである。

人の心は、常に迷ひ、悔ひ、苦しむものである。

あつて、この世に於ては、人の心は、千変万化するものである。

致一

函

〜 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。

孫承承衛兵

〜 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。

通具

〜 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。

孫承承衛兵

通具

〜 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。 此の通りお話し申上り候。 御座り申す。



あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
ハ初二句と序合ふかゝるは。 結句のまゝにんりん  
を相考す命は依りし出家僧 直教門院丹後

山王受のまゝにんりんはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん

百首歌まゝにんりん 家傳の片  
海のまゝにんりんはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん

あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん

歌一らん 命事法師

あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん

為行

あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん  
あつたがなまはびとて松小のまゝにんりん



あゝ文のねらうらうらうと道ありてやん人かきしを  
あゝ文の棘乃下れたるまをまをまをまをまをまをまをまを  
はむかひのうらうらうらうの年々の人かきしを人のうらうの表す  
うらうの奥山ふかき身すすす賢人隠したるをまをまをまを  
あゝ文のうらうらうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
ふらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの

百首歌集の一首

二條院讃波

あゝ文のねらうらうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの

年ぞへふ家も松ふらやあり。

山家松

俊成

今こそはまの松が宿の松を代を代を代を代を代を代を代を  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの  
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうの

春日社歌合小松風

青家歌片

承ふぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
らせぬぐいー。相違せぬぐたー。 承ふぐいおまおま  
おまぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
思ふぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
相違ぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
松風のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
まはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
源のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ

後白河院栖斎寺おまおまのまゝなる神がーなるなりからせ

の故よまおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ 定家おま

承ふぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
おまぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
相違ぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
思ふぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
松風のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
まはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
源のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ  
のまはれぬぐいおまおまのまゝなる神がーなるなりからせ

最後は天皇院の隣に小布引流を築く所也

五家御所

久しうの天つともが友に後にも言わふさし小布引のまゝに  
布引の流おあしぬど何は昨の布引にけしんさうもん  
やうは仙女もあがそはうさうそ天はまゝあはまゝあはまゝ  
はらゝまゝたてま井ふさし後とらふおあやうこのまゝあ  
べし。友をさしうは降よれ結のち。てまゝあはまゝあはまゝ  
友の流お入しうもんく又接しうもんかまゝあはまゝあはまゝ  
し接しうもんあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ  
もまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ



天の川系をすくくす 橋改

友をさしうは降よれ結のち。てまゝあはまゝあはまゝあはまゝ  
友の流お入しうもんく又接しうもんかまゝあはまゝあはまゝ  
し接しうもんあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ  
もまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝあはれまゝ

天の川系をすくくす 橋改

ひくもく天つともが友に後にも言わふさし小布引のまゝに  
布引の流おあしぬど何は昨の布引にけしんさうもん  
やうは仙女もあがそはうさうそ天はまゝあはまゝあはまゝ  
はらゝまゝたてま井ふさし後とらふおあやうこのまゝあ

天の川系をすくくす 橋改

ひくもく天つともが友に後にも言わふさし小布引のまゝに  
布引の流おあしぬど何は昨の布引にけしんさうもん  
やうは仙女もあがそはうさうそ天はまゝあはまゝあはまゝ  
はらゝまゝたてま井ふさし後とらふおあやうこのまゝあ

中引の如く下白の形にせしめしむる事には、此の形に引込  
れしと云ふ事にして、

此の

形に引込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引  
込る事にして、

意亦大借心

此の形に引込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引  
込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引込る事  
にして、此の形に引込る事にして、此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引  
込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引込る事  
にして、此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、

此の形に引込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引  
込る事にして、此の形に引込る事にして、此の形に引込る事  
にして、此の形に引込る事にして、

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, consisting of approximately 10 lines.

抄  
改

Handwritten text in a cursive script, continuing the passage from the previous page, consisting of approximately 10 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a concluding line or a separate section, consisting of approximately 1 line.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, consisting of approximately 10 lines.

夢之者回たよりし神に

八十

神

新やんは神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

神の心は神の心

述懐百首

後集

神の心は神の心





嵐のきまはけしきよそわけのさし。

百そまゝに傳へるお

按改

あつた心は海草の葉おそろひのまゝに海草の葉をいへりあへり

下句初めをいへり。

守之元法親王の御平にまゝの御唐の定家御唐

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

雑言下

最後四天王院障子も大波りきつていへり

定家御唐

大波の浦おかりほりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

大波の浦に帰しあり。三の白きふりいへりいへりいへりいへり

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

いへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

伊勢物屋も大波の浦におおふりいへりいへりいへりいへり

まのいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへりいへり

空の申れは我がしるふ。なま書れはまきあはれ。のちをたづねて  
 三のふらふら。わらわのまはる。あはれ。あはれ。あはれ。  
 かしや。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 かしや。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

歌——らま

思ひ給はせまをそま。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

形はあはれま。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

歌

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

ねろ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

かゝりておぼしめされし。

### 奇受法親王出家年を説く。海蓮

くじまつしも花もあやふりし花をわたりて花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら

### 述懐

あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら  
あまらるる花のふらふら花のふらふら花のふらふら

花えすくげく、年月を過ぎるのありきもあらず。  
ひたひたもいふは、いふは、いふは、いふは、いふは、  
いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、

### 首巻大悟正

いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、  
いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、  
いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、  
いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、いふは、





斗やしくさしふらうしよるる。

家世の事

大いふ秋の藤さきゆきふらうしよるる  
おできしし。 一かしひひあましくぞく  
こめしあつとあつといふ。 二三のふさ歌の神  
りくさりあまし。 貴いあましあましあまし  
あつとあつと。 大いふあましあましあまし  
らあましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし



ろつとあましあましあましあましあまし  
おとあましあましあましあましあまし

あつとあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし  
あましあましあましあましあましあまし





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning the right page of the open book.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning the left page of the open book.

家やういふのうまもよしにぬきすしれぬ世のすまはらば  
下句にさるもよきしれぬ小車しぬれまう教られ  
ぬあはうき中まよしのまはるし。 此まよしとていふは  
からまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
まよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
何ふおひまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
まよし。 二の句にれとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
しぬれぬまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
てんぬしぬれぬのうまの例まよしとていふはまよしとていふは

おかし物まよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
は歌のまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
初二の句のまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
まよしとていふはまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは

みよし初の中小述撰

守是法教王

やういふのうまもよしにぬきすしれぬ世のすまはらば  
下句にさるもよきしれぬ小車しぬれまう教られ  
ぬあはうき中まよしのまはるし。 此まよしとていふは  
からまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
まよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
何ふおひまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
まよし。 二の句にれとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
しぬれぬまよしとていふはまよしとていふはまよしとていふは  
てんぬしぬれぬのうまの例まよしとていふはまよしとていふは



あはれなるあはれなる

春日社文合よまき

宗博宛片

昨日の文をうけては、いかにうれしうござりまする。おはれに

おはれに。 昔の文をうけては、いかにうれしうござりまする。

乃た、おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。

いかに、おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。

吹つて、おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。

おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。おはれに。

述懐百首紅葉

後集

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる





Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in several lines, starting with a large initial letter. The script is dense and fluid.

Handwritten signature or mark.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in several lines, starting with a large initial letter. The script is dense and fluid.

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

入道中向者致士良

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



~~~~~

~~~~~

八條院を念ふ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、

神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、

神祇歌

大正九年四月十日

抄改

神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、  
 神代卷の神祇歌の源流を論ずるに当りて、神代卷の神祇歌は、

回し可の言中より傳ふる 定まぬを

榮りありとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
上ら相をまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
うぬ相をまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
からぬをまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

大神宮歌中ふ

古上天宮神歌

けがめがや神宮の山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
神宮ふらぬをまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
りまの北條よりまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
改む 是れは山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

うれまがが 是れは山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

鼓しん

西歌

神宮山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
味をまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
んをまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
て神宮山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

くまの月後社ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

くまの月後社ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
二の白、天皇の靈宮山ふすまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん  
道のまきまきとていみじき川のゆらぐちをまきまきとけしれずん

祇の歌ふ歌や〜〜〜  
袖のわが書巻よふあはれ回夢と〜  
〜  
〜  
〜  
〜

神祇

慈宗大僧正

やうが家よふあ〜〜  
月ひふた粒川よふられる祇の歌〜

入道宗の言白歌よむ歌ふ

俊成

神風や〜〜の川よふ〜

四の白す〜言ふ作さ〜川の縁の廻。

社頭詠涼

大井長明殿

五平粒川やや〜不粒の夢走〜  
ややゆ〜不粒〜松の夕風〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

八幡宮の持言ま〜

法華成清

柳葉よ〜〜ひ〜  
〜  
〜

二の白うぶも跡をひきつるに候字づつ此の事記す  
つがはるゝもあはれなり。

文治六年女津入白屏風小條時季の書す

後集

母の由りていし川小教とておふはれり山田の神  
教とていし山藍のなまゝ家人の教は母おとらう  
なり。 四の白の教入。氷のあつてあるをふし  
山あのおれをなまゝいし家あはるをふその教おれ  
やういしなり。

十の白の合の中小神紙

意流古傳云

子をいの教人の色を人とはげとていしは阿まの  
下白。阿まの玉垣のまろごしとていしふり。古流  
んやうひ。漢文より赤とていし。又丹紙とてい  
し。 或抄ふまを記しとていし。とていしとてい  
えぬとていし。

ふあれお中のおりて社の所つていし。おし

きおふよる家

賀茂重保

記す。我れ 邦おあひひのあつて何ふれを  
はとていし。おし。 佛は初めなり。

鴨社の歌合とていし。とていし。とていし。とていし。

鴨長明

乙川やきずのふしの流る流るれぞももふれまはるばるおきまむ  
入道兼実白れるそふ小神一紙

借入る

春日野のおぼろけさきうもれをまはさふ神の志さしおし  
おぼろけし神あまきし 袖のさる京氏の志 二の  
ふた太刀の末やうきさ 三のふたおきれうらむれ  
よまふ 下の家おそれあきなる藤ふたふがくしのぬれ  
おまおしきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり  
しうは ありさるさとやうもれまはるばる

連懐

兼実大借正

あしきで日吉の新くももぬ小源あやもきりきりきりきり  
流るみづるわたり成抄ふきひびりきりきりきりきり  
くそきたまげさしりれさきも地ぶれきりきりきりきり  
よしきりきりきりきり

しかり人の神づちまひのいさかきりきりきりきりきり  
下の木の神づちまひのいさかきりきりきりきりきり  
まきはらふ又きりきりきりきりきりきりきりきり

ふたふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
よふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

よむ或抄ふ永き法光れう小菅家の徳ふあひまひ  
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん  
よし相ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

釋教歌

五月づつる小菅女院の善持講ふすてふ年竹るる

肥後

てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

あそたし

紫阿ふらたふのふれし

速懐

慈赤大信正

あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし

あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし  
あそたしあそたしあそたしあそたしあそたし

よき事なき事ありて三乃勺よりすまむれいしんをばらばらに  
すむれいしんをばらばらにすむれいしんをばらばらに  
すむれいしんをばらばらにすむれいしんをばらばらに  
すむれいしんをばらばらにすむれいしんをばらばらに  
すむれいしんをばらばらにすむれいしんをばらばらに

孫定

招改

おこひひらけりもなきことありあやなき多きを風ふまひて  
おこひひらけりもなきことありあやなき多きを風ふまひて  
おこひひらけりもなきことありあやなき多きを風ふまひて  
おこひひらけりもなきことありあやなき多きを風ふまひて  
おこひひらけりもなきことありあやなき多きを風ふまひて

いそぎを指さそりしをまじかる。下白き。飛花流を  
いそぎを指さそりしをまじかる。下白き。飛花流を  
いそぎを指さそりしをまじかる。下白き。飛花流を  
いそぎを指さそりしをまじかる。下白き。飛花流を  
いそぎを指さそりしをまじかる。下白き。飛花流を



よみ人の心を琴の音に委ねのまら風おかしらるる  
やうにわたりしるるにたれぞよよとてしるる  
乃ふよしとてしるるにたれぞよよとてしるる  
途のたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる

草花初開樂

これぞこのうき世の外なる考ふかしらるる  
あがきとてしるるにたれぞよよとてしるる  
はしとてしるるにたれぞよよとてしるる  
のとりよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
なまよとてしるるにたれぞよよとてしるる

やうにたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
これぞこのうき世の外なる考ふかしらるる  
あがきとてしるるにたれぞよよとてしるる  
はしとてしるるにたれぞよよとてしるる  
のとりよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
なまよとてしるるにたれぞよよとてしるる

快樂不退樂

昔れもたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
ようにたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
こころたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる  
のたれぞよよとてしるるにたれぞよよとてしるる

引接結縁樂



ぶれおふそのとん。

分別功德品或作不退地

徳の心りまゝのわかれまゝのくわゝるふゆいんがれい  
こゝの心は法華經を説くにあつた。 かゝるやうな不退  
地なり。 心は道よりゆるやかに法華經の經。 一そ  
のまじりあはれおぼせぬ法のまじりあはれなれば。

普門品念不退過

あしよごむきまゝのまじりあはれいふ者あはれいふまゝのそ  
圓名及見身心念不退能滅諸有若しこれ文のまじり  
あはれいふまゝのれと教書の名あはれ親書の功德をいふ



文なり。 上の經文をまじりあはれいふがの文は空をいふ  
のまじりあはれまじりあはれいふは法華のまじりあはれ  
まじりあはれ。 上の心念不退のまじりあはれ親書の感  
あはれいふは滅諸有若しこれ。 上のまじりあはれ

法師品加刀杖尾石念佛故應忍のまじりあはれ

定事

法師品のまじりあはれいふまじりあはれいふまじりあはれ  
初二句、加刀杖尾石念佛のまじりあはれ應忍のまじりあはれ  
念佛故といふまじりあはれいふ。 上のまじりあはれいふ  
まじりあはれのまじりあはれいふまじりあはれいふまじりあはれ

歌の思ふなきもせしむるは歌の思ふなきの思ふなき  
まがら歌の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら佛の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがらまがらまがらまがらまがらまがらまがら

五百弟子品内秘菩薩藏の思ふなき

意象大傳心

いふに佛の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
上の釋迦の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら富樓那が小乘空理を説きし声聞を説きしを  
下の説の後流義理の思ふなき内秘菩薩藏外是現声

圓こそがの思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら圓の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら圓の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき

人こそがの思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき

堂大

解然

道の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
歌の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら道の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
歌の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき  
まがら歌の思ふなきの思ふなきの思ふなきの思ふなき



唯佛の法華を説く事可也。おまづ比喩のお話をし  
んか。——の事。文殊の如く。お説く事。今般迦作の事。  
お説く法華を説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
三の事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。

作是教已復至他國

お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。

お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。

十戒の文も有りし事不偷盗戒

お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。

不邪淫戒

お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。  
お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。お説く事。

おんぐきしし三の白菊をさきしし　　ししめりふぶし  
やぶははきしし乳嬢のさあさくぶてん女をまはらふし  
shinobu shira  
shira shira shira  
しし

子酒酒板

あしあしおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

百善の中ふ毎日晨朝入諸定

式子日記

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

しかるに... 地蔵... 奥樂... 此の...

書肆

永樂屋東四郎藏板

名古屋本町通七丁目

勢海... 花... 為... 物... 以... 可... 世...



9112  
5  
06

再此... 如... 之... 乃... 因... 焉... 夫... 不... 尾... 張... 素... 自... 能... 堪...



千學